

ISSN 0385-7476
SSK

151
1997
September



その研究と情報

1 特集◎

視覚障害研究者は今

—障害の深みから共生を求める旅人たち— 高橋秀治

28 talk to talk◎

支援センター開設10周年を迎えて 田中徹二／高橋実

37 ボランティア最前線◎

“目の代わり”としてトータルな援助を目指す

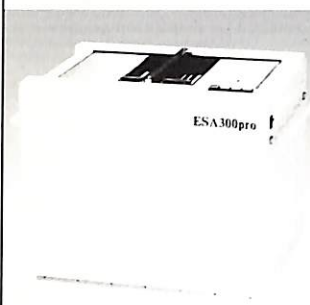
神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団（前編） 佐々木英子

45 インフォメーション・コーナー

50 「視覚障害」総目次No.141～No.150

盲人用情報機器シリーズ

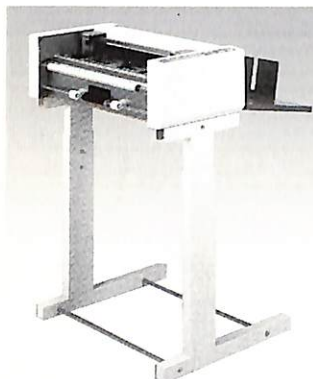
品質の良さは納入先に表れます。



ESA300Pro
点字ラインプリンタ
1ページ5秒!
最高速の業務用
点字ラインプリンタ

日本最高速の印刷スピードと両面印刷を実現。32マス22行をわずか5秒で打ち出し、ラインプリンタにありがちな紙のよれもなく、すばやく美しく仕上げます。

V-500 大量の用紙カットも、スムーズ&スピーディー



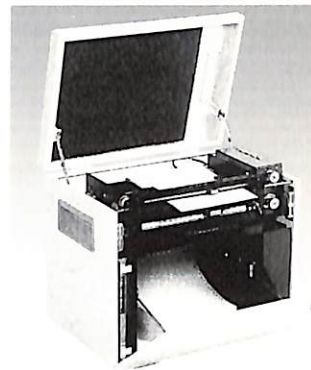
ページエンドと片耳(両耳) カット同時で1,000枚が15分で完了。操作状況が一目でわかる液晶パネル、ページとばし防止ストッカーなどかんたん操作で使いやすく、音も静かです。

PORTA-THIEL ポータ・ティール日本仕様
機の隣に一台、気軽なパーソナル・プリンタ



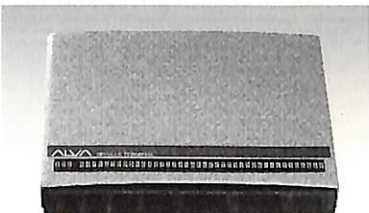
点字プリンタでは世界的信頼を誇るドイツ・ティール社との提携で生まれた、コンパクトサイズのパーソナルプリンタ。日本点字規格への対応はもちろん、すべて日本仕様です。

ESA721 点字プリンタ・プロッタ
点図表現も思いのまま。
定評ある高性能&多機能型



高速印字はもちろん、3点方式による点作図プロッタ機構(世界初)の搭載で、すぐれたグラフィック表現が可能。音も静かで、広くご愛用いただいています。

ALVA BRAILLE TERMINAL
ABT-340 (40+3キャラクター)
世界標準にアクセスできる
点字用ビンディスプレイ



MS-DOSをはじめIBM/OS2、ウィンドウズにも対応。オランダ・アルバ社特許のタッチカーソルにより、優れた操作性を実現しました。小型軽量で、ノートパソコンにも最適です。

各機器についての詳細、
その他取り扱い機器については、
弊社まで資料をご請求ください。



JTR Corporation

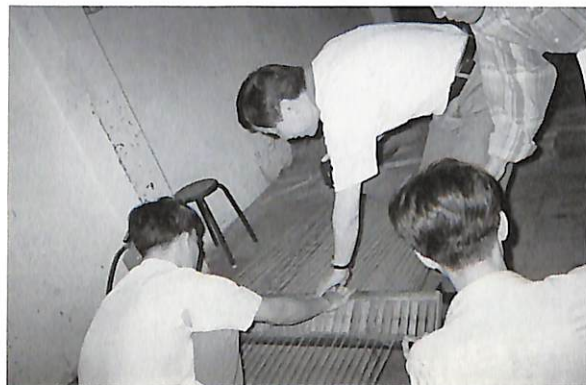
有限会社 ジェイ・ティー・アール
東京都北区浮間4-17-4

Tel.03-5392-0414 Fax.03-3967-8254

ベトナムの視覚障害福祉を調査

国際視覚障害者援護協会では、今年度「アジア視覚障害者実態調査事業」を行なうことになりました。その第1回目の調査団は、6月29日から7月4日の期間でベトナムを訪問。ベトナム盲人協会、労働傷病兵雇用省、ホーチミン・ハノイ盲学校などを訪ね、視覚障害者の状況を視察しました。

計画では、ベトナムの他ミャンマーも調査することになっており、報告書は来年3月ごろ刊行されます。



上：ホーチミン盲学校校門前での調査団一行。

下：ホーチミン市盲人協会作業所。ここで視覚障害者は蓆座に似た敷物を編んでいるが、工賃は非常に安価である。

金沢に視覚障害者情報文化センター竣工

社会福祉法人石川県視覚障害者協会が建設を進めていた“石川県視覚障害者情報文化センター”は、去る6月22日に落成式を迎え、翌日からサービスを始めました。

完成した建物は鉄筋3階建て、総床面積は約1500㎡。従来の点字図書館と視覚障害者会館それぞれの機能を合わせ持ち、点字図書館業務、点字出版業務の他、中途失明者支援、自立と社会参加促進、盲老人の生きがいと地域交流事業などを行ない、視覚障害者の生活福祉と文化の向上を目指します。



専用の実習室にて、毎週開催しているパソコン実習なども好評。



嵐山で

第37回文月会例会



日本盲人福祉研究会（文月会）は、1961年7月の発足以来毎年、京阪神・中部・関東と回り持ちで例会を開いています。今年は、7月26日～27日の両日にわたり京都嵐山で開催されました。

写真は、2日目研修会での、京都弁護士会副会長・竹下義樹さんの講演の模様。

なお午後には、加藤俊和さん（日本ライトハウス点字情報技術センター所長）の司会で、田尻彰さん（京都ライトハウス鳥居寮寮長）、慎英弘さん（花園大学助教授）、渡辺昭一さん（京都ライトハウス点字出版部）を迎え「何が変わり何が変わっていないか——社会参加と法制度」と題するシンポジウムを行ないました。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編 集 後 記

十何年ぶりで奈良で開かれた全日本盲学校教育研究大会に参加しました。今回初めて「情報処理」と「盲学校教育の検討」の分科会が設けられ、私は後者に参加しました。盲学校が今抱えている「重複化」「児童生徒の減少化」「理療科への進学が困難な生徒の学習と進路の保障」等をいかにクリアすべきかなど白熱した討議が繰り広げられました。この模様は次号でレポートする予定です。

この分科会終了間際に、ある盲学校の先生が「司会者は『手短に手短に』と連発しておられるが、それは差別語なので謹んで欲しい」と発言され、会場は一瞬静まりました。私は改めて日常何気なく口にしている「盲点」「四這（よつんばい）」「片手落ち」等の言葉を思い出し考えさせられました。皆さんはいかがでしょう。

本号から墨字版印刷は(株)大活字に変わりました。長い間、この印刷をお引き受けいただいていた合同印刷(株)に厚くお礼申し上げます。
(高橋 実)

視 覚 障 害	1997年 9 月 No.151
年間講読料	4,200円 (送料とも)
発行日	1997年 9 月 1 日
編集人	立花 明彦
(連絡先)	日 本 盲 人 福 祉 研 究 会
	〒167 東京都杉並区上荻 2 丁目37番10号
	Keiビル 3 階
	電話 (03)5310-5051 (代)
	FAX (03)5310-5053
	振替口座 00160-4-16103
発行人	身体障害者団体定期刊行物協会
	〒157 東京都世田谷区砧 6-26-21
印刷所	株式会社 大活字
	〒160 東京都新宿区西新宿 7-22-19
	電話(03)3362-8954